

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

注意報

災害のおそれがあるときに発表されます。ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう。

警報

重大な災害のおそれがあるときに発表されます。

特別警報

数十年に一度の大災害が起きると予想される場合に発表されます。危険な区域から避難できていない方は、命を守るための最善の行動をとりましょう。

雨の強さと降り方

1時間の雨量(mm)	予報用語	雨の降り方、災害発生状況
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る。雨の音で話し声が良く聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り。ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、都市では下水管から雨水があふれる。危険地帯では避難の準備が必要。
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のようにゴーゴーと降り続く。都市では地下室や地下街に雨水が流れ込むことがある。マンホールから水が噴出する。土砂災害が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

平均風速(m/s)	おおよその時速	風圧(kg重/m ²)	予報用語	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	車に乗っていて	建造物の被害
10以上15未満	～50km	～11.3	やや強い風	一般道路の自動車	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れる。電線が鳴る。	道路の吹き流しの角度、水平(10m/s)、高速道路で乗用車が横風に流される感覚を受ける。	取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。
15以上20未満	～70km	～20.0	強い風		風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	小枝が折れる。	高速道路では、横風に流される感覚が大きくなり、通常で運転するのが困難となる。	ビニールハウスが壊れ始める。
20以上25未満	～90km	～31.3	非常に強い風	高速道路の自動車	しっかりと体を支持しないと転倒する。		車の運転を続けるのは危険な状態となる。	鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。
25以上30未満	～110km	～45.0		立ってられない。屋外での行動は危険。	樹木が根こそぎ倒れ始める。	ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外外装材が飛び始める。		

地下道(アンダーパス)に注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を想定しておきましょう。

火災発生!そんなときどうする

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期消火の3原則

1
2
3

早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

早く消火する

- 天井に燃え移っていない火事が限界
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油なべ

1. 遠くから、消火器を使用する。近すぎると油がはねる。
2. 消火器がない場合、濡らしたシーツなどをゆるく絞り、手前側からかぶせる。(ヤケド注意)
3. ガスの元栓を閉める。

石油ストーブ

1. 消火器の薬剤が全体を包むように消火する。
2. 消火器がない場合、濡らしたシーツなどをゆるく絞り、手前側からかぶせる。その上から水バケツで消火する。(ヤケドに注意)

カーテン

消火器や水バケツで消火する。炎が上に燃え上がるのを防ぐ。

衣類

地面などに横になって、転がるように消す。立ったままだと勢いよく燃え広がりが全身やけどになる。

枯草

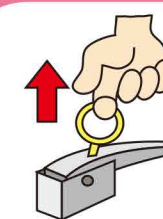
1. 水バケツや水道ホースで消火する。
 2. スコップで土をかける。
 3. 消火器の薬剤を全体にかけて消火する。
- ※ 野外焼却(野焼)は法律および県条例により原則として禁止されています。

早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。

消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけ上に引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

使用の際の注意事項

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

火災予防が一番!!

火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

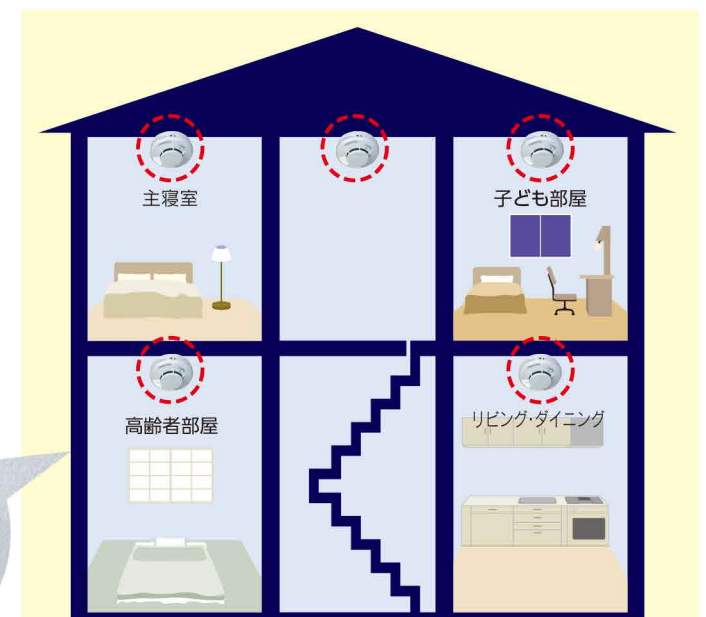
火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋などが就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…2階以上に寝室がある場合、階段の天井などへの設置が必要です。
- その他…台所や居間などへの設置もおすすめします。住宅火災で最も多い火災原因はコンロからの出火によるものです。

注意: 住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあります。10年を目安に交換しましょう。住宅用火災警報器は、定期的に作動確認を行いましょう。



警報器



住宅内取付位置図